

5. 普及・広報活動

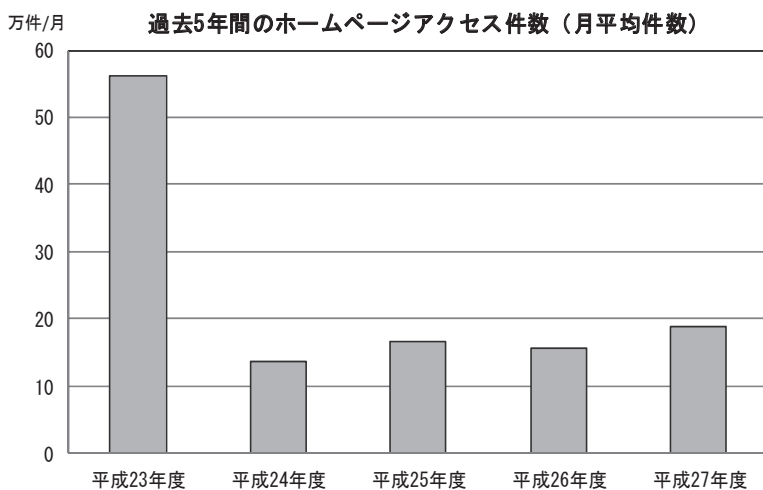
気象研究所では、研究の内容や業務について広く一般の方々の理解を促進するため、気象研究所ホームページやパンフレットなどの媒体を通じて情報を発信している。

また、施設の公開は気象研究所が独自に実施しているもののほか、他省庁の主催する行事への協力や筑波研究機関連絡会、つくば市等の行事と連動し、効果的な普及・広報活動に努めている。

5. 1. ホームページ

気象研究所のホームページは、気象研究所の研究活動や内容を内外に向けて積極的に発信することを目的として、平成7年12月から運用し、平成26年6月に掲載内容を拡充してリニューアルを行った。

気象研究所ホームページは、気象庁のホームページや関連研究機関からリンクが張られており、平成27年度のアクセス件数は月平均で約18.9万件であった。



※平成23年度はログ解析方法が異なる



ホームページアドレス：<http://www.mri-jma.go.jp>

5. 2. 施設公開等

一般公開（科学技術週間）

気象研究所では、同じ気象庁に属する観測部観測課所属の気象測器検定試験センター及び高層気象台とともに、科学技術に関する国民の関心と理解を深めるため、科学技術週間[†]の行事の一環として一般公開を行っている。この一般公開では研究・観測施設の公開、ビデオ放映やパネル展示により当所業務の紹介を行うほか、職員自らによる講演や講義によりこれまでに得られた最新の知見を来場者に紹介している。

平成27年度は4月15日（水）に行い、115名の来場者があった。

[†]科学技術週間

科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、わが国の科学技術振興を図るために設定されている週間。例年、発明の日（4月18日）を含む週が科学技術週間として設定される。

お天気フェア

気象研究所では、気象測器検定試験センター及び高層気象台と共同で、毎年夏休み期間中に「お天気フェア」を開催している。この「お天気フェア」では、研究・観測施設の公開やビデオ上映のほか、研究部ごとに特徴を生かしたブースを設置し、実験や解説を行っている。

なお、このお天気フェアは、つくば市教育委員会が主催する研究機関等の施設見学スタンプラリー「つくばちびっ子博士」の指定イベントとして登録されている。

平成 27 年度は、8 月 5 日（水）に以下の内容で開催し、2,691 名の来場者があった。

	企画内容（タイトル）	主催官署・研究部	
講習	天気図講習会	予報研究部	
施設公開	低温実験施設	予報研究部	
	回転実験施設	環境・応用気象研究部	
	風速計検定用風洞施設	気象測器検定試験センター	
見学	オゾンゾンデ観測の見学	高層気象台	
	パラシュートを作ろう	高層気象台	
工作	色々なパラシュートを飛ばしてみよう	高層気象台	
	放球体験：気球を空に放ってみよう	高層気象台	
体験	火山を学ぼう	火山研究部	
	地震の音を聞いてみよう	地震津波研究部	
	マグニチュード体験	地震津波研究部	
	マジックアース	企画室	
	展示	高層気象観測などのパネル展示	高層気象台
		誕生日の地震カード	地震津波研究部
		阪神大震災ミニ写真展	地震津波研究部
	実験	地磁気観測所展示	地磁気観測所
紫外線を測ってみよう		高層気象台	
雨粒の形を見てみよう		環境・応用気象研究部	
空気砲で遊ぼう		気候研究部	
どっちが塩水？		海洋・地球化学研究部	
竜巻発生装置		気象衛星・観測システム研究部	
その他	台風で強風が吹く仕組み	台風研究部	
	クイズラリー		

施設見学

定期的な一般公開（科学技術週間、お天気フェア）のほか、主として学校教育の一環として行われる校外授業や海外からの来訪者などを対象に、施設見学の対応を行っている。平成 27 年度は、座学と実験施設の見学を組み合わせた「降水」、「竜巻」、「地震・津波」、「環境」、「地球温暖化」の 5 つのコースを設定した。平成 27 年度は 24 件の見学を行った。

5. 3. 他機関主催行事への参加

つくば市などが主催する、科学技術の普及に関する行事に参加・協力し、気象研究所の研究活動の紹介や、気象・気候・地震火山に関する知識の普及活動を行っている。平成 27 年度は、下記の行事に参加・協力した。

平成 28 年 1 月 20 日 研究員による小中学校出前授業サイエンス Q（筑波研究学園都市交流協議会主催）に参加
 テーマ：スーパーコンピューターでどれくらいリアルな台風を作れるのだろうか？
 出前講座先：つくばみらい市立小絹中学校
 研究員：和田 章義（台風研究部）

このほか、つくばサイエンスツアーオフィス（(財)茨城県科学技術振興財団）や筑波研究学園都市研究機関等広報連絡会議（事務局 つくば市市長公室広報課）などに参画し、つくば市内の研究機関として広報活動に寄与している。

5. 4. 報道発表

平成 27 年 5 月 26 日 大涌谷（箱根山）での地磁気の研究観測の実施について
 概要：気象庁気象研究所は、火山活動が活発化している大涌谷（箱根山）で、地磁気の研究観測を実施します。
 <http://www.mri-jma.go.jp/Topics/H27/270526/press20150526.html>

平成 27 年 7 月 8 日 フェーズドアレイレーダーの研究運用開始について
 概要：気象研究所が整備したフェーズドアレイレーダーは、本日（7 月 8 日）から研究のための運用を開始しました。
 <http://www.mri-jma.go.jp/Topics/H27/270708/PAR20150708.html>

平成 27 年 9 月 18 日 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨の発生要因 ～2つの台風からの継続的な暖湿流の流入と多数の線状降水帯の発生～
 概要：今年 9 月 9 日から 11 日にかけて、関東地方から東北地方で大雨が降り、大きな災害が発生しました。最初は台風第 18 号から変わった低気圧、後には台風第 17 号の周辺からの南東風が主体となり、大気下層に温かい湿った空気を継続的に流入させ、上空では気圧の谷の東側で南風が強まっていました。このような大気状態が持続したことによって、台風第 18 号のアウトバウンドから変わった幅 100～200km の南北に伸びた降雨域の中に、多数の線状降水帯が近接して発生し、降水の集中が引き起こされました。
 <http://www.mri-jma.go.jp/Topics/H27/270918/press20150918.html>

平成 27 年 9 月 29 日 平成 27 年台風第 15 号の急発達と暴風について ～ドップラーレーダー観測データを用いた台風の強度・構造解析～
 概要：平成 27 年 8 月 23 日から 24 日にかけて、沖縄県内で記録的暴風をもたらした台風第 15 号について、現在開発中の台風強度推定手法を用いて気象庁現業ドップラーレーダーデータを解析した結果、台風が八重山諸島を通過する前後に急発達していた可能性が示されました。
 <http://www.mri-jma.go.jp/Topics/H27/270929/press20150929.html>

5. 5. 国際的な技術協力

気象研究所では、気象庁として加盟する世界気象機関(WMO)の枠組みの中で、WMOが行う様々な研修に講師として研究者を派遣するほか、開発途上国などからの研修員を積極的に受け入れている。また、独立行政法人 国際協力機構(JICA)が行う政府開発援助のもとで行う研修においても、気象に関する幅広い技術の指導や支援を行っており、国際的な技術協力を行っている。

そのうち、気象研究所で平成 27 年度に受け入れた研修は以下のとおりであり、来訪者及び対応者は、8.3「海外研究機関等からの来訪者等」に記載している。

- ・ JICA 集団研修「気候変動への適応」
- ・ JICA 集団研修「気象業務能力向上」
- ・ JICA 課題別研修「アジア地域 水災害被害の軽減に向けた対策」

また、地震火山分野にあつては、平成 7 年以来、(国研) 建築研究所が行う「国際地震工学研修」グローバル地震観測コースにおいて、地震波解析による核実験識別法の講義等を行うことを通じて、包括的核実験禁止条約の枠組み推進に貢献するとともに、平成 23 年度からは同研修の個人研修にかかる研修生の受け入れも行っている。